生ごみの堆肥化によるリサイクルの取り組みは

問　地球温暖化抑制の観点から、現在、本市が行っている生ごみの焼却処理を見直し、堆肥化によるリサイクルに取り組む考えは。

答　現在、燃やすごみとして収集している生ごみの全量を焼却せずに堆肥化する場合、市民による分別や収集方法、堆肥化処理ができる広い用地の確保や施設整備、臭気対策など多くの課題があり、市全域での堆肥化の取り組みは難しいと考えている。しかし、生ごみ堆肥化の取り組みは、一部では地球温暖化防止対策に寄与するものと認識しているため、機械式や容器式の処理機により生ごみを堆肥にする家庭や事業所を支援し、焼却によらない方法を推進している。また、給食調理場のある小中学校三十校のうち二十九校には生ごみ処理機を設置して残飯等を堆肥化し、できた堆肥はＰＴＡや農家等へ配布するなど、リサイクル活動にも取り組んでいる。

▲給食の残飯等を堆肥化する生ごみ処理機（静浦西小）

塚田川・沼津江川の水質浄化の取り組みは

問　①塚田川の水質浄化に向けて、ひらき加工排水を下水道に接続する取り組みは。②沼津江川の水質浄化に向けた今後の取り組みは。

答　①ひらき加工排水は、志下地区において十四社が下水道への接続を完了しており、今後も南部浄化センターの運転管理状況を判断し可能な限り接続を進めていく。なお、同センターは、本年度から第二期拡張工事に着手しており、工事完成後にはさらに多くの下水道への接続が可能となる。接続が完了するまでは、これまで同様、河川パトロールを強化し、住民からの情報提供に即応した監視と業者指導に努めていく。②沼津江川には、一般家庭排水のほか水産加工業を初めとする事業場排水が流入し、汚濁が著しい状態にある。ひらき加工排水は、公共下水道狩野川左岸処理区の整備を推進し、塚田川同様、処理場の運転管理状況を判断しつつ可能な限り下水道への接続を進めていく。また、雑節加工排水は、他都市の取り組み等を参考にするとともに、最新の汚水処理技術の動向を調査・研究するなど問題解決に努めていく。

捨て犬・捨て猫を抑制する取り組みは

問　①捨て犬・捨て猫を抑制するための取り組みは。②犬・猫の新たな飼い主を探すため、本市ホームページなどを活用する考えは。

答　①捨て犬・捨て猫の抑制は、飼い主のモラルの問題であり、飼い主が愛情と責任を持ち、適正な飼養に努めることが必要であると考える。このため、「広報ぬまづ」や自治会への回覧などにより正しい飼養を啓蒙するとともに、県東部保健所と連携した個別指導も実施している。また、県においては、現在、動物愛護管理推進計画を策定中であるが、本計画が策定された際には、本市においてもこの計画に沿った対応を検討していく。②飼養が困難になった犬・猫を減らすための静岡県動物保護協会の事業の一環として、市役所一階に新たな飼い主を探すための「ポッチとニャンチの愛の伝言板」を設置しており、平成十八年度には犬十五頭（匹）、猫八頭（匹）の譲り受けが成立している。本市ホームページなどの活用は、新たな飼い主を探す方法の一つとして有効であることから、関係機関と協議し検討していく。

▲新たな飼い主を探すため市役所１階に設置されている「ポッチとニャンチの愛の伝言板」